

大規模災害・事故等を想定し備える（1）

これまでの自然災害の教訓を踏まえ、大地震・津波・台風などに対する防災対策を徹底して推進しています。また、事故・自然災害及び安全輸送に支障を及ぼす恐れのある事態が発生した場合には、事故・災害対策本部を立ち上げ、関係部署が連携を図ることにより、迅速かつ的確な応急処置や復旧に努めています。

強風への備え

強風は電車の運転に大きな影響を与えます。Osaka Metroでは地上を運転する区間（御堂筋線、中央線、南港ポートタウン線）の安全運行を確保するため5箇所に風向風速計を設け、風速に応じて電車の運転取扱いを定めています。

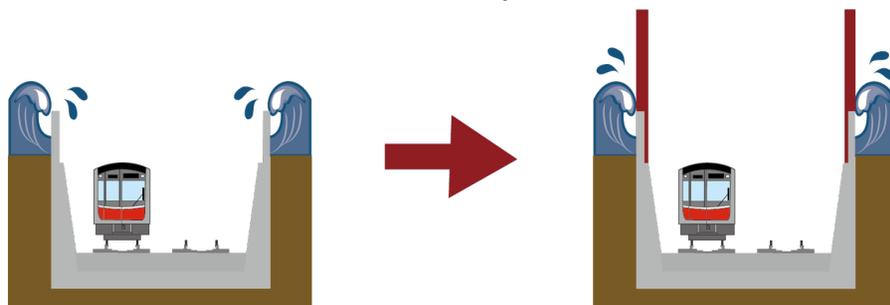
暴風時運転取扱い

風速	御堂筋線、中央線の運転取扱い	南港ポートタウン線の運転取扱い
20m/s以上	地上区間を運転する電車の速度を40Km/h以下に制限	駅から出発する電車の運転を休止し、駅間の電車は25Km/h以下で次駅まで運転し、その後の運転を休止
25m/s以上	全線または区間を定め、運転を休止	運転を休止

津波浸水への備え

2013年8月に大阪府から南海トラフ巨大地震に伴う津波の浸水範囲が公開され、大阪市内沿岸部には3m程度の津波が2時間以内に到達すると想定されています。このため、Osaka Metroではお客さまの迅速な避難や施設防護の設置に取り組んでいます。

2018年度は地下～高架移行区間における側壁のかさ上げを実施しました。また、換気口に対してかさ上げを実施しています。



側壁のかさ上げ（イメージ）



換気口かさ上げ

巨大地震への備え

巨大地震による激しい揺れは電車の運転に大きな影響を与えるため、気象庁からの緊急地震速報の展開に加え、基本地震計（3か所）及びエリア地震計（5か所）を設けています。

また、2019年6月末に、地震の揺れによる高架部のサードレールの脱落を防止する耐震アンカレッジの取付けを完了しました。

2021年度末までには、耐震対策として東日本大震災などから得られた知見・基準等を踏まえ、高架橋やトンネルのさらなる耐震対策に取り組めます。2025年度末までには、液状化対策として、地震後、通常通り車庫から電車が出発できるよう地盤改良を行います。さらに2026年度末までには、地震による電車脱線による被害拡大を防止するために、脱線対策ガード付きまくら木や脱線防止レールを導入します。

基本地震計とは

電車の運転を判断するための地震計

エリア地震計とは

エリアごとの点検レベルを判断するための地震計



耐震補強工事

対策前



対策後



落橋防止工事



サードレール脱落防止

大規模災害・事故等を想定し備える（2）

｜ 駅の安全

非常停止合図装置

お客さまが線路に転落したときなどに、電車を直ちに停止させるための設備を設けています。



防災盤・火災報知器・消火栓

駅内の防災設備等を集中管理するために、駅長室内に防災盤を設置しています。火災の発生を駅長室に自動的に通報する感知器と消火に使う消火栓及び消火器を駅構内各所に設置しています。



防煙垂壁・防火シャッター

ホームでの火災発生時に煙の流動を防ぎ、お客さまの避難経路を確保するための設備です。



内方線付き点状ブロック

ホームの内側に線状の突起を設け、ホームの安全側を表示した点状ブロックを設置しています。



｜ セキュリティ対策

ごみ箱の透明化

テロに対する抑止効果を高めるため、全ての駅に設置しているごみ箱を透明化しています。



防犯カメラの設置

安心して地下鉄・ニュートラムをご利用していただくため、車両に80台、駅構内に3,000台、計3,080台の防犯カメラを設置しています。（2018年度末時点）



IP無線機を用いた迅速な情報連携

2018年12月に全駅長室・全改札口にIP無線機の配備を完了しました。これにより、複雑な地下空間での駅係員間の迅速な連絡体制を整え、お客さまサポート及び視覚に障害をお持ちのお客さまの見守り業務体制の強化を図りました。



｜ 車両の安全

非常通報装置

車内での異常を乗務員に知らせるための装置で、各車両の前後（ニュートラムは各乗降扉横）に設置しています。



転落防止装置

お客さまが電車の連結部から線路に転落するのを防ぐための設備です。



非常はしご

駅間に電車が停止して、その後の運転ができなくなった時に電車の先頭部から線路に降りていただくための設備です。（Osaka Metroでは線路のほとんどがトンネル構造のため、電車の先頭からの避難を原則としています。避難の際には乗務員・駅社員の指示に従ってください。）



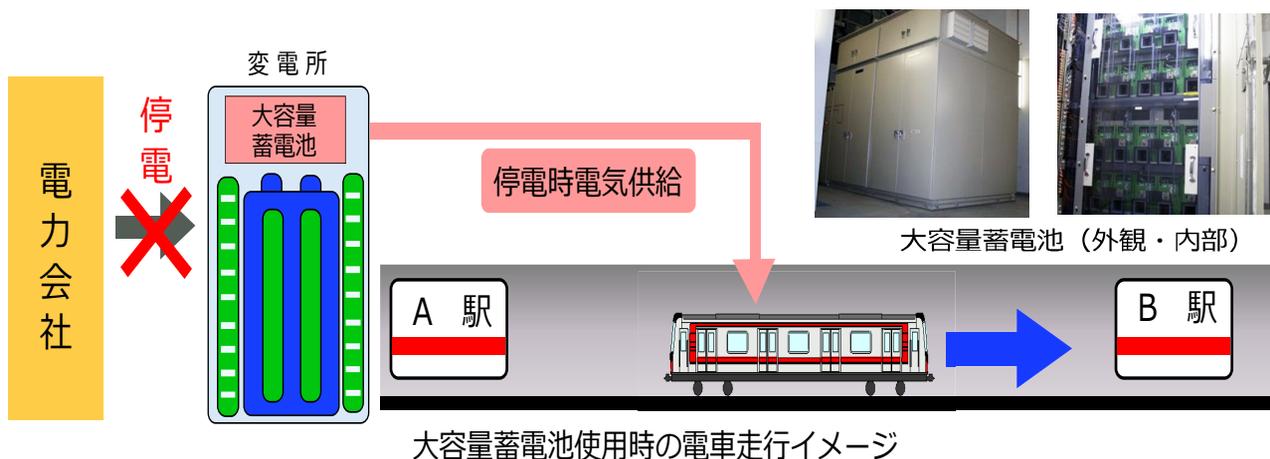
消火器

車両の火災等に備え、各車両に消火器を1個設置しています。



お客さまを次の駅まで確実に輸送

地震発生時に電力会社からの電力供給が途絶えても、駅間にある電車が立ち往生することなく次駅まで運転することができるよう、津波浸水範囲の路線の中で必要な区間に大容量蓄電池の設置を2019年度末完了に向けて取組んでいます。



避難訓練を実施

Osaka Metroでは、会社全体として対応しなければならない規模の重大な事故等が発生した場合に備えた訓練を、警察・消防や、各ステークホルダーと連携しながら行っています。

総合訓練及び地下街合同訓練

Osaka Metroでは、異常時にお客さまが安全・迅速に避難していただくための訓練を、警察や消防と連携した総合訓練を行っています。

そのほか、隣接する他の鉄道事業者や、大阪地下街(株)との間で安全輸送やお客さまに安心していただけるご案内について、日常から情報連携を行っています。この取組みの一環として、定期的に異常時を想定した合同訓練を行っています。



緊急時の多言語放送

地下鉄・ニュートラムは、国内だけでなく海外からのたくさんのお客さまにもご利用いただいています。緊急事態が起こったときはなおさら海外からのお客さまへの配慮が欠かせません。Osaka Metroでは、全ての地下鉄・ニュートラムにて、災害時の案内を多言語で放送し、海外からのお客さまに安全・安心を感じていただきます。(2021年度までに導入完了予定)